

2007年(平成19年)3月7日(水曜日)

## NPOセフティマネジメント協会

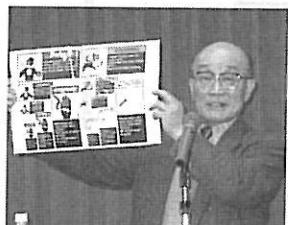
(製造物責任)

### P.L.対応の取扱説明書の作り方講座開催

NPOセフティマネジメント協会(岡野光彌理事長)は(株)キャブテン(出崎克代表取締役)と、2月20日、「P.L.」(M.R.M.本木邦彦代表取締役)の後援で東京都港区の機械工具会館において、「P.L.」対応に配慮した取扱説明書の作り方にについて、60人を超えるメカニカル担当者が熱心に聴講した。



出崎氏



相原氏

はじめに出崎克専務理事(株)キャブテン代表取締役)が「当会は2002年2月、内閣府からN.P.O.の認証を受けて以来5年間、継続的にP.L.の予防対策に取り組んできた。本日の『取扱説明書の作り方』もこうした活動の一環だ。1995年に6条からなるP.L.法が施行されたが、P.L.セミナー参加者のほとんどが同法を読んでいないのが実態だ。P.L.法は世界的な物作りの標準の考え方といえる。最近ガス機器が話題になっているが、自分がユーザーの立場で取扱説明書や警告ラベルを読みでも事故を防ぐのは難しいと感じている。メーカーは自分自身

座」を開催。企業防衛上からも基本に立ち返つてのP.L.対応に配慮した取扱説明書の作り方について、60人を超えるメカニカル担当者が熱心に聴講した。

はじめに出崎克専務理事(株)キャブテン代表取締役)が「当会は2002年2月、内閣府からN.P.O.の認証を受けて以来5年間、継続的にP.L.の予防対策に取り組んできた。本日の『取扱説明書の作り方』もこうした活動の一環だ。1995年に6条からなるP.L.法が施行されたが、P.L.セミナー参加者のほとんどが同法を読んでいないのが実態だ。P.L.法は世界的な物作りの標準の考え方といえる。最近ガス機器が話題になっているが、自分がユーザーの立場で取扱説明書や警告ラベルを読みでも事故を防ぐのは難しいと感じている。メーカーは自分自身

の生活に置き換えて取扱説明書などを作成する」とがスタートと考えられる」といさつした。

#### 【取扱説明書も製品の一 部】

同協会の相原憲二特別顧問が次の講演を行った。

かつての物づくりは対面オーダーが基本であったが、大量生産・大量消費時代の現在では、工場から出荷されると取扱説明書だけがよりどころとなっている。

欧米ではます取扱説明書を熟読する習慣があるが、日本では分からなくなつてから読むのが一般的。読まずに生じたトラブルは使用者の責任だ。

取扱説明書も製品の一  
部との認識が必要で、作  
る技術を使う技術に生か  
すべき。日進月歩の商品  
はユーザーに正しく理解  
してもらつことが必要と  
いえる。

取扱説明書には、読み

取扱説明書作成の考  
え方は、保険のパンフレッ  
トや契約のしおり作成に  
も通じるものといえる。

個条書きを基本とし  
て、1セントエンス50字以  
内、1行の漢字は30%以  
内を目安に読みにくい印  
象を与えない。

法令は必要最小限のも  
のを逸脱基準として定め  
ており、以下消費者期待  
基準・慣習レベル基準・  
危険効用比較基準・最高  
水準の自主基準と続く。

取扱説明書も製品の一  
部との認識が必要で、作  
る技術を使う技術に生か  
すべき。日進月歩の商品  
はユーザーに正しく理解  
してもらつことが必要と  
いえる。

取扱説明書作成の考  
え方は、保険のパンフレッ  
トや契約のしおり作成に  
も通じるものといえる。